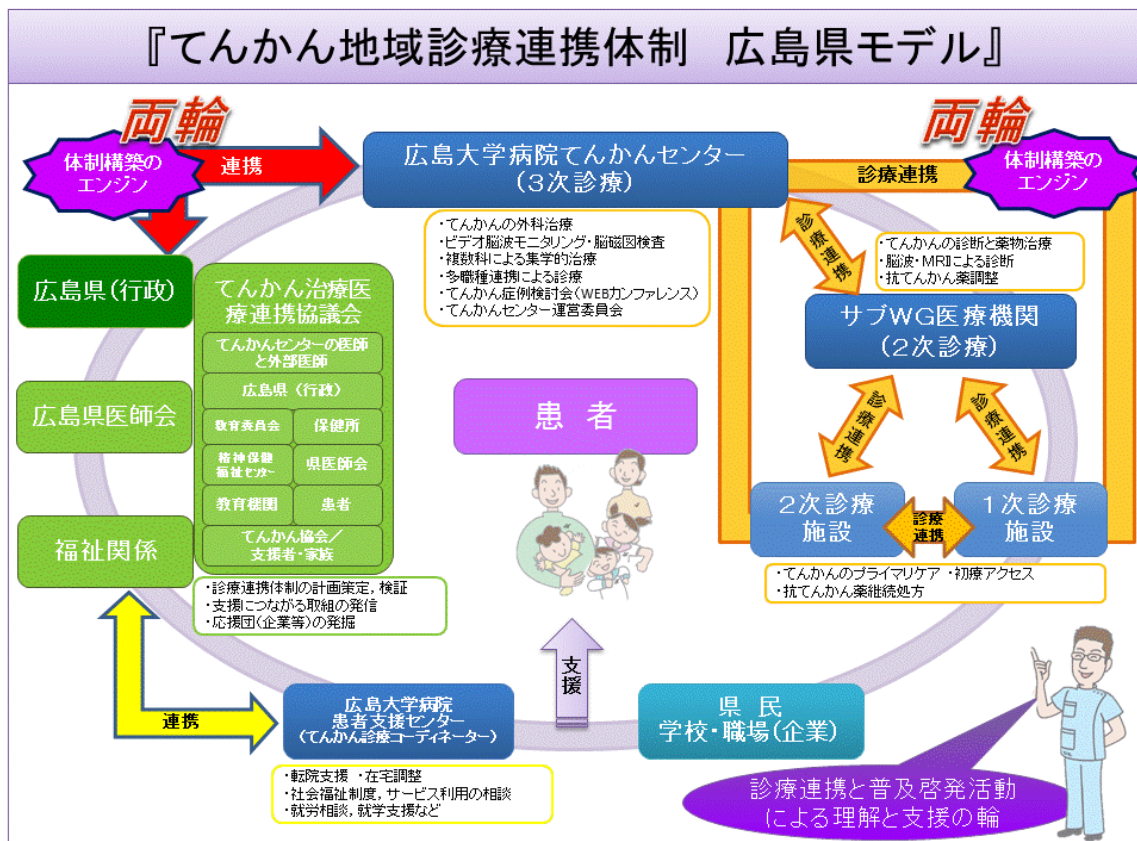


広島県てんかん地域診療連携体制整備事業（2019年度）

広島大学病院てんかんセンター 飯田 幸治

まとめ

- ・てんかん治療医療連携協議会およびサブワーキンググループでは、診療連携体制の構築について引き続き検討を行っている。また、サブワーキンググループの活動では広島県内の初診てんかん患者の受診のながれを把握する目的でてんかん患者調査を継続して実施している。
- ・教育関係者向け研修会の他に医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師、リハビリテーション関係者、歯科医師・歯科衛生士、福祉関係者など幅広い職種向けに研修会を行い、てんかん診療の知識や最新情報を伝達しててんかん診療の質の向上を図っている。
- ・本事業推進の方向性を分かりやすく周知するために広島県モデルを作成し、実施している。このモデルの特徴は、広島県（行政）と医療機関（特に2次サブWG医療機関）を体制構築のエンジンとしている点で、患者を中心にこの両輪で多職種連携を回し、今後は1次診療機関への連携を拡大することで体制をより強固にしていく予定である。



1. 活動報告

1) てんかん治療医療連携協議会

てんかん治療医療連携協議会では事業計画の策定、事業効果の検証などを行っている。

開催回数：2回（5/15、2020/3/18）

2) てんかん治療医療連携協議会サブワーキンググループ

サブワーキンググループでは事業の指標として患者調査の実施、WEBカンファレンスでの症例検討、連携体制の仕組作りの検討などを行っている。開催回数：2回（6/19、2020/2/4）

3) 遠隔てんかん症例検討会

UMICS（国立大学病院インターネット会議システム）を利用して遠隔カンファレンスを行いサブ WG 医療機関と広島大学病院との間で症例発表・検討を行うことで、てんかん診療のレベルアップとてんかん診療ネットワークの構築を図っている。



2019/4月～12月開催分 参加人数：計 293 名（広島大学 192 名，サブWG 63 名，広島県外医療機関 38 名），症例提示数：20 症例

4) 研修会

①医療従事者向け研修会

- ・広島てんかん脳波セミナー(HEES)は主に中国四国エリアのてんかん治療医およびてんかん非専門医を対象に 2012 年から開催してきた。昨今では、毎年 100 名を超える全国からの医師や検査技師の参加を得ている。

開催回数：1 回 (10/26)，参加人数：139 名

- ・2 次保健医療圏域（広島地区）において「てんかん診療を考える会」を開催した。

開催回数：1 回 (6/12)，参加人数：58 名

②教育関係者向け研修会

てんかんを持つ児童の教育現場（特別支援学校）において、てんかん発作への適切な対応や最新治療法の情報共有を行うため、広島県内の特別支援学校にて研修会を開催した。

※今年度は日本てんかん学会 G S K 医学教育事業助成セミナー共催事業として、広島大学病院てんかんセンターから講師を派遣した。

開催回数：8 回，参加人数：計 384 名

③医療・福祉関係者向け研修会

薬剤師，看護師，臨床検査技師，リハビリテーション関係者，歯科医師・歯科衛生士，社会福祉関係者向けに各職種で知っておきたいてんかんの基本と題しててんかんセミナーを開催した。※今年度は日本てんかん学会 G S K 医学教育事業助成セミナー共催事業として広島大学病院てんかんセンターから講師を派遣した。 開催回数：8 回，参加人数：計 672 名



5) 普及啓発活動

①市民フォーラム

一般市民に対する疾患啓発には最も力を注いできたが、開催地を広島市内から地域へも広げた市民フォーラム「てんかんを考える」は今年で 10 周年を迎え、広島市と 2 次保健医療圏域で各 1 回開催を予定している。

開催回数：広島市 1 回 (11/17)，参加人数：297 名

開催予定：2 次医療圏（東広島市）1 回 (2020/2/29)



② サンフレッチェ広島とのコラボレーション

てんかん疾患に対する正しい理解を持ってもらうため、サンフレッチェ広島の本拠地・エディオンスタジアムにおいて、紫をチームカラーとするサンフレッチェ広島と広島大学病院 てんかんセンターがコラボレーションして、てんかん疾患の啓発活動を行っている。スタジアム前の広場に「てんかん疾患啓発ブース」を設置し、来場者にちらし・コラボ缶バッジを配布、横断幕へのてんかん患者への応援メッセージの寄せ書きをしてもらうなどの活動を行っている。

開催予定：2020/3月、ボランティア参加人数：約50名、ちらし・缶バッジ配布数：約3,000

広島県の取組み(主な活動)

てんかんセンター構成員

- ・脳神経外科 医師
- ・脳神経内科 医師
- ・小児科 医師
- ・精神科 医師
- ・放射線診断科 医師
- ・救急科 医師
- ・障害者歯科 歯科医師
- ・看護部
- ・薬剤部
- ・診療支援部
- ・治験コーディネーター
- ・患者支援センター

サブワーキンググループ(WG)の取組み

◆患者調査
 広島大学病院とサブWG 9医療機関で初診てんかん患者調査を実施
 広島大学：H27.12～H30.10初診分 累計844人
 サブWG：H28.7～H30.10初診分 累計1850人

◆WEBカンファレンス (毎月第3木曜日)
 広島大学病院で開催の「てんかん症例検討会」
 UMICS(国立大学病院インターネット会議システム)を利用

研修会・普及啓発活動

- ◆てんかん患者・家族・地域住民向け講演会
 - ・市民フォーラム広島(年1回、参加0200～300人)
 - ・2次医療圏での市民フォーラム(年1回、参加050～100人)
- ◆医療・福祉関係者向け研修会
 - ・広島のてんかん診療を考える会(年1回、参加050人)
 - ・てんかん脳波セミナー(H-EES)(年1回、参加0100人)
 - 他、2019年8回開催
- ◆特別支援学校での研修会
 - ・2019年8校で開催

サブWG 9医療機関 [全2次保健医療圏(7)にて指定]

サンフレッチェ広島とのコラボ企画

広島大学病院(てんかんセンター)は2016年9月から、紫をチームカラーとするサンフレッチェ広島とコラボレーションをして、てんかん疾患の啓発活動に取り組んでいます。世界的なてんかん疾患啓発活動である「パープルデー(Purple Day)」(毎年3月26日)に合わせて、3月にエディオンスタジアムで来場者に缶バッジやチランの配布、選手のサイン入り横断幕にメッセージの寄せ書きをってもらうなどの活動を行っています。一人でも多くのサポーターやそのご家族、地域住民の方にてんかんに対する正しい理解を持っていただき、てんかん患者さんが過ごしやすい社会の実現をめざしています。

活動には、毎年多くのボランティアの参加があり、2019年は約50名が参加し、缶バッジ・ちらし約3000の配布を行いました。

また、毎年報道にも取り上げられ新聞に掲載されています。

6) 事業の指標 (てんかん患者調査)

地域のかかりつけ医(1次診療)から、専門医(2次診療)、地域診療において中核を担う3次診療の三者が連携し、患者が適切なたんかん診療を受けられるよう「てんかん診療ネットワーク」を構築することを目的に、広島大学病院とサブWG医療機関において患者調査を実施し診療状況、受診のながれの現状把握を行っている。

| |
|---|
| 調査対象：てんかん病名(ICD10コード：G40、G41)がついた初診患者、調査方法：診療録の調査 |
| 調査期間：広島大学病院：2015年12月1日～2019年9月30日初診分、サブWG医療機関：2016年7月1日～2019年9月30日初診分、調査項目：患者属性、患者への対応方法、治療期間、他制度との連携、相談件数、相談への対応など |

2. 成果

この厚労省地域診療連携体制整備事業としての成果は、“広島県の体制(広島県モデル)”を構築し、すでに実施に至っている点と、患者調査(事業の指標)を継続して実施している点である。今後はこれをより強固な体制にすべく推し進めていきたい。